

「あいづち」の使い分けにおける 中国語話者と日本語話者の相違

— 情報のなわ張り理論の観点から —

王 婧

1. 問題の所在

人は話をする時、聞き手に反応を求めている。このような聞き手の反応の一つに、あいづち (back-channel) 注¹ が挙げられる。本稿では、中国語と日本語の日常会話に出現する「あいづち」の使い分けに関する分析を試みる。あいづちの研究については、頻度、形式、機能、タイミングなど幅広く研究されており、貴重な知見 (水谷1984、メイナード1993、堀口1997、水野1988、楊1999・2004、永田2004など) が得られている。しかし、あいづちに関しては、新たな視点から研究を進める必要があると考えられる。例えば、以下の会話例を見てみよう。

例(1)

A 先週、大阪のUSJに行ったんだ。

→D1 そうらしいね。

→D2 そうですか。

(筆者による作例)

話し手Aの発話に対する聞き手D1とD2の反応である。D1は「そうらしいね」というあいづち表現、D2は「そうですか」というあいづち表現を選択する。Aの発話に対するD1とD2のあいづち表現の違いにはどのような理由があるのであろうか。そして、同じ状況では、中国語母語話者 (CS・CH) と日本語母語話者 (JS・JH) が用いるあいづち表現はどうなるのだろうか。次の会話を見てみる。

例(2)

146CS1 哎，我听说韩国那边的女生都比较流行整容吧。

→147CH2 对。

(日本語訳)

146CS1 ねえ、韓国の女の子の中で整形が流行っているそうだね。

→147CH2 そうだよ。

(筆者の録音・録画の資料より)

例(3)

289JS3 韓国の女の人ってきれいって言うけど、整形とかしとるんじゃない。「↓」
→290JH4 /沈黙 1秒/なんか、そうらしい。

(筆者の録音・録画資料より)

中国語母語話者 (CS・CH) と日本語母語話者 (JS・JH) は、どちらも同じ状況である。しかし、聞き手CHと聞き手JHの反応はそれぞれ異なっている。中国語母語話者は、「対(そう)」、日本語母語話者は「そうらしい」を用いる。このように、同じ状況の下で、聞き手の反応が異っていることから、あいづちにおいて中日の違いが出てくる理由があると考えられる。

本稿の目的は、神尾 (2002) の「情報のなわ張り理論」を援用しながら、中国語話者と日本語話者におけるあいづちの運用実態を分析し、対照させることである。

2. 理論の概略

2.1 情報のなわ張り理論の概要

日常会話において、提供された情報によって私たちは何気なく文を使い分けている。情報のなわ張り理論では、文の表す情報と話し手または聞き手との間に一次元の心理距離が成り立つものと想定する。この距離は〈近〉と〈遠〉の2つの目盛りによって測定される。これに基づいて、〈情報のなわ張り〉の概念を定義すると、〈X^{注2}の情報のなわ張り〉とは、Xに〈近〉とされる情報の集合である。〈近〉となる条件^{注3}として取り上げている。神尾 (2002) では、理論の枠組みが次のように想定される。

図1において、「1」は「よく知っている」「近い」ことを表し、「0」は「全く知らない」あるいは「遠い」ことを表す。なお、「1」と「0」の間にある境界として「n」が設定される。これは、その情報が話し手および聞き手に知られている程度を表すもので、nよりも左側の範疇が情報のなわ張り内であり、nよりも右側の範疇が情報のなわ張り外であるとされている。

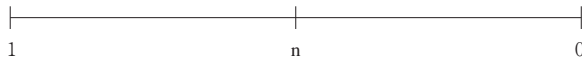


図1

次に、聞き手および話し手のそれぞれに一次元の尺度があるとすると、図2のようになる。

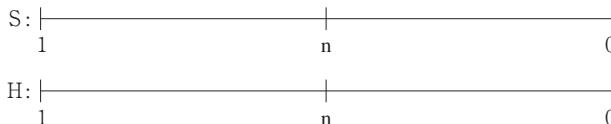


図2

以下のような事例で考えてみる。

例(4)

S:あの人は病気がしい。

→H:うん、そのようだね。

例(5)

S:あの人は病気がしい。

→H:えっ、そうなの？

神尾 (2002:14)

これらの例では、話し手が事実をよく知ってはいるが、確認できないという設定である。聞き手の反応が違っている。神尾は聞き手の認識状態を図3と図4のように表している。縦の矢印(↓)は尺度上で取る値である。

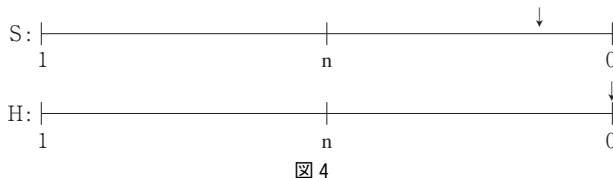
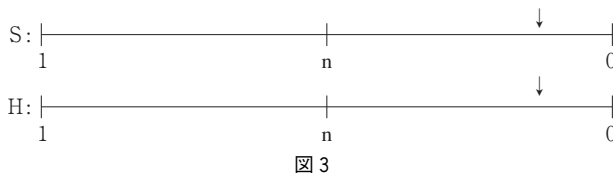


図3は、話し手も聞き手も「あの人は病気である」ことを知っているが、不確かな尺度を表し、図4は、話し手は「あの人は病気である」ことを不確かながら知ってはいるが、聞き手はそれを全く知らないという状況の尺度を表していると説明されている。

情報のなわ張り理論では聞き手よりも話し手の視点から出発し、文型とそれが表す情報との関係が観察対象になる。その関係は表1のようになる。

表1 情報のなわ張り4状況(神尾 2002)

状 況	定 義	文 型
A	話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外 ($1 = S > H < n$)	直接形
B	話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内 ($1 = S \geq H > n$)	直接ね形
C	話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内 ($1 = H > S < n$)	間接ね形
D	話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外 ($n > S \geq H$)	間接形

2.2 中園（1992）の分類

日本語の応答・あいづち表現について、中園（1992）はテレビ番組から録音したデータをもとに、「情報のなわ張り理論」の枠組みを検討して考察を加えている。中園はまず、あいづちを9つに分類する。

- ① 無音（反応無し） ② 諾否表現 ③ 感嘆表現 ④ 笑い ⑤ 質問（問い返し）
⑥ 繰り返し ⑦ 先取り ⑧ 言いさし ⑨ 話者転換

次に、情報が2種類に分けられる。1つ目は、「聞き手情報」^{注4}である。これは聞き手のなわ張りに入る情報であるので、〈近〉の情報とも言える。この場合には②⑦⑧で応じると予測した。

例(6)

A1：あなたとは前に別の番組で一緒したんですけども。

→B1：はい。

中園（1992：42②）

A1：案外今日朝のワイドショーなんか見えますと公平にね。

→B1：やっていた。

中園（1992：42⑦）

A1：最初むしろ弾圧をうけるのが普通で法難なんて言い方しますよね。

→B1：ありますね。

中園（1992：42⑧）

2つ目は、「非聞き手情報」^{注5}と呼ばれ、例(7)のように、聞き手のなわ張りに入らない情報のことを指す。〈遠〉の情報とも言う。この場合には③⑤⑥で応じるとする。

例(7)

A2：僕は絶対に東京で仕事したいとは思わないんです。

→B2：ほう。

中園（1992：42③）

A2：しかし台風なると思いだすなあ。

→B2：何を？

中園（1992：42⑤）

A2：だからね僕は大阪に帰ってくるとホッとする。

→B2：あっホッとする。

中園（1992：42⑥）

なお、本稿の分析と考察の過程で、中園（1992）の研究成果と適宜比較してみたいと考えている。

3. 会話データ

本稿では合計約90分の会話を録音・録画したデータを分析の対象とする。中国語母語話者の会話と日本語母語話者の会話を用いる。参加者は3組6人が中国人の友達どうし、3組6人は日本人の友達どうしである。いずれも親しい20歳前後の女子大学生である。

レコーダーを2人の前のテーブルにおいて音声を収録し、1台のカメラで会話進行中の非言語的なあいづちを記録した。なお、本稿では、言語的なあいづちだけを分析対象とし、非言語的なあいづちは取り扱わない。

調査の手順としては「実験1」と「実験2」とに分けて実施している。実験1は被調査者による自由会話、実験2は簡単なロールプレイである。実験2において被調査者には、話し手と聞き手の設定が書かれた「シナリオ」を渡し、それをもとに話してもらった。なお、2人の参加者には90度の位置に座ってもらった。録音・録画した後、アンケートに自由記入してもらった。また、不明な点について、簡単なインタビューを行った。

4. 分析と考察

本節では、「情報のなわ張り」とあいづちの種類との相関関係を検証したいと思う。聞き手がある情報を与えられたとき、自分と当該の情報との関係にしたがって、どのようにあいづちが打たれるのかについて考察する。日本語のあいづちに関しては、先行研究においてかなりのことが明らかとなっているので、本節の分析ではこれを参照しながら中国語のあいづちを中心に分析していく。

分析の手順として、神尾（2002）に基づき、A～Dの状況それぞれについて考察を加える。次に、その考察から見えてくる中日の差異を確認する。表2は、4つの状況ごとにあいづちの種類とその回数をまとめたものである。

表2 中日会話に現れる言語的あいづちとその回数（文末） (回数)

情報の種類	中国語		日本語	
	A	あいづち詞 先取り	18 5	あいづち詞
B	あいづち詞	17	あいづち詞	48
	先取り	10	先取り	2
	繰返し	4	繰返し	3
	言い換え	2	言い換え	1
C	直接形あいづち	8	直接形あいづち	6
			間接形あいづち	3
D	あいづち無し		あいづち詞	7
合計		64		115

4.1 A状況（話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外の場合 1=S>H<n）

今回のA状況において、基本的には中日ともに聞き手が話さず、話を聞く傾向が見られる。この状況における中国語母語話者は「这样啊（そうなんだ）」「哦（哦ー）（なるほど）」、「啊—（あー）」^{注6}などを用いており、日本語母語話者は「へえ」「そうなんですか」「なるほど」といった「あいづち詞」^{注7}を用いる。この点は、中園（1992）でも同様の指摘がされている。

例(11)

55CS1 （略）然后就是撒化肥（嗯<1回うなずき），然后就是还有什么，农业作物啊，这样子这些撒上去<4回うなずき），都要用手去弄，还不能带手套。

→56CH2 这样啊。

（日本語訳）

55CS1 （略）それで、化学肥料を撒いて（うん<1回頷き）、そして、あのう…なんていうか、農作物などに、こう撒いてやる（4回頷き）。ぜんぶ手でやるの、手袋もなしに。

→56CH2 そうなんだ。

例(12)

14JS1 : 洋画、最近『Flight plan』とか見た？

15JH2 : 見てない。

16JS1 : 結構おもしろい映画だった。

→17JH2 : へえ。

また、例(13)において、中国語母語話者は、聞き手の役割をするとともに、「相手の言おうとする内容を言う」（堀口1997）「先取り」を行っている。黒崎（1997）はこれを「共話」^{注8}の代表的な型として捉えている。つまり、結果として会話を進展させることになっているのである。

例(13)

57SC7 天，我们都不敢拿蜡烛上去，都是拿<电筒>{|<笑い>==

→58HC8 <笑いながら><电筒>{|}

59SC7 ==带一个电筒上去。

（日本語訳）

57SC7 すごい。蠟燭を持って行くのが怖くて、みんな<懐中電灯>を使っちゃう。{|<笑い>==

→58HC8 <笑いながら><懐中電灯>{|}

59SC7 ==懐中電灯を持っていく。

以上の会話は、情報に対して、話し手にとって〈近〉、聞き手にとって〈遠〉の状況である。「先取り」が行われることで、聞き手が話し手のなわ張りに踏み込むことになった。しかし、会話は干渉されずに進んでいることが分かる。これは、「聞き手が身を入れて聞いているという会話への集中度」(黒崎1997)を表すと同時に、相手のなわ張りに踏み込むことによって、積極的に相手の話題に参加し、お互いの親密さを示す^{注9}という見方も出来そうである。この状況において日本語話者と聞き手の間では「先取り」の例は見られない^{注10}。

4.2 B状況(話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内の場合 1=H≥S>n)

本節では、B状況を考察していく。話し手にも聞き手にも〈近〉の情報の場合、あいづちがどのように打たれるかを観察する。

例(4)

99CS1 诶, 对对对。只是说「星座1」呢, 要比「星座2」带的感情色彩要多些。

→100CH2 嗯嗯嗯〈4回頷き〉

101CS1 然后「星座2」的比較理性(恩, 对对〈3回頷き〉)一些, 这方面的事。

→102CH2 嗯嗯〈2回頷き〉

(日本語訳)

99CS1 ええ。そうそうそう。ただ、「星座1」というのは、「星座2」よりもっと感性的。

→100CH2 うんうんうん〈4回頷き〉

101CS1 あと、「星座2」のほうがもっと理性的(うん、そうそう〈3回頷き〉)、こういったことだね。

→102CH2 うんうん〈2回頷き〉

例(5)

163JS5 なんか最近テレビでなんか、洗顔料を使わんほうがいいみたいな。

→164JH6 そうそう〈相手のほうを指差し〉、あ、見た。それ。朝、水洗いって。

165JS5 そうそうそう。

例(4)では、中国語母語話者が連続して「嗯嗯嗯(うんうんうん)」を用い、例(5)では、日本語母語話者が連続的に「そうそう」といった「反復型あいづち」^{注11}(永田2004)を用いて反応している。

また、B状況では(1=H=S>n)^{注12}、中国語会話には「先取り」が多く観察され、日本語の会話にも出現していることが分かる。また、「繰り返し」や「言い換え」も中国語母語話者と日本語母語話者に出現した。従って、B状況では、「狭義のあいづち」から

「広義のあいづち」(White1986)まで多様に富んでいると言える。

4.3 C状況(話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内の場合 1=H>S<n)

次に、C状況に注目して議論を進める。ある情報に関して話し手よりも聞き手に〈近〉の場合である。

C状況では、中国語母語話者と日本語母語話者とも「同意の信号」(松田1988)を伝えるあいづちが打たれることが多い。このようなあいづちは聞き手情報(中園1992)なので、「はい—いいえ」などで応じるという中園の指摘と一致する。中国語会話には「嗯(うん)」、日本語会話には「うん」と「そう」が出現し、「そうだよ」と「そうなんよ」が使用されていた。

例(16)

122SC 3 她好像结婚了吧。

→123CH 4 嗯。上个月结的。

(日本語訳)

122SC 3 彼女は結婚したようだね。

→123CH 4 うん。先月結婚したよ。

例(17)

287JS 5 お姉さん、結婚したそうだね。

→288JH 6 うん。結婚しとるよ。

また、中国語母語話者は「对(そう)」、日本語母語話者では「そうらしい」が使用されていた例もある。

前述した例(2)と例(3)において、中国語母語話者と日本語母語話者は、詳しく知らない情報に対して、断定的な表現を使わず、間接的な表現を用いていた。しかし、中日それぞれの聞き手の反応には違いがある。例(2)と例(3)とは、話し手(CS・JS)と聞き手(CH・JH)で同じ状況(聞き手はあることを完全に知っているが、話し手はそれほど知らない)を設定した。同じ韓国で体験したことに対して、例(2)の場合、「韓国の女の子の中で整形が流行っているらしいね。」を受けて、中国語母語話者は「それが実情である」を表す(黄2002)応答表現「对(そう)」という直接形と選んでいる。それに対して、例(3)では、「韓国の女の子ってきれいっていうけど、整形とかしとるんじゃない。」を受けて、日本語母語話者が「そうらしい」を使用していた。つまり、日本語母語話者は、間接的な応答を選択していたのである。

例(2)

67CS 1 哎, 我听说韩国那边的女生都比较流行整容吧。

→68CH 2 对。

(日本語訳)

67CS えっ、韓国で、女の子って整形を流行っているそうだね。

→68CH そうだよ。

例(3)

289JS 3 韓国の女の人ってきれいっていうけど、整形とかしとるんじゃない「↓」。

→290JH 4 /沈黙 1秒/なんか、そうらしい。

こうして、C状況 ($1 = H > S < n$) の場合、中国語会話では直接型の「嗯 (うん)」「对 (そう)」が用いられ、日本語会話では、2種類のあいづち「うん」「そうらしい」が使い分けられている。

神尾 (1992: 47) は、情報が話し手のなわ張りに属し、聞き手のなわ張りには属さないと、話し手は「直接形」を用いると規定した。これに従うと、情報が聞き手のなわ張りに属し、話し手のなわ張りには属さないと、聞き手は「直接形あいづち」^{注13}を打つことになると考えられる。

興味深いことに、中国語母語話者は「直接形あいづち」を選択し、日本語母語話者は「直接形あいづち」を選択しない場合もある。神尾 (1992: 56) では「日本語で直接形を用いた場合には、情報は話し手のなわ張り内のみにある。すなわち、情報が話し手のなわ張り内に独占されていることが直ちに含意される」と述べている。そして、「独占化は日本文化の下では好ましい印象を与えない」と記述し、直接形が可能である状況において意図的に間接形を用いることが許される場合は少なくないとする^{注14}。つまり、C状況の場合、日本語母語話者にとって自分のなわ張り内にある情報だとしても、「直接形あいづち」を避け、「間接形あいづち」を選ぶのだと考えられる。C状況について中国語母語話者と日本語母語話者の状況を再検討すべきであろう。

4.4 D状況 (話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外の場合 $n > S \geq H$)

最後に、D状況 ($n > S \geq H$) を考察する。即ち、情報が話し手と聞き手両方のなわ張り外にある場合である。

例(18)

36CS 7 对了, [人名] 好像找了个新男朋友。

→37CH 8 我不知道。什么时候？

(日本語訳)

36CS 7 そうだ。[人名] って新しい彼氏できたい。

→37CH 8 よく知らない。いつ？

例(9)

220JS 5 [人名] って彼氏ができたらしい。

→221JH 6 えっ。

以上の例は同じくロールプレイでどこかで聞いた話を相手に伝える状況である。例(8)では、「[人名]って新しい彼氏ができたい」という発話に対し、中国語母語話者が「あいづち無し」で「我不知道（よく知らない）」を選んで応えたことが分かる。それに対して、例(9)では、日本語母語話者は「えっ」のような「感嘆表現」を選んで使用したことが分かる。このことは中園（1992）でも指摘されていた。

これらから、D状況（ $n>S>H$ ）^{注15}の場合、即ち、情報が話し手と聞き手両方のなわ張り内にはない時は、中国語母語話者は、確実に情報に対する認識がゼロであることを話し手に伝える。それに対して、日本語母語話者は単独で「えっ」を用い、「意外・驚き」（田窪・金水1997）を表す傾向にある。ただし、「えっ」だけで当該情報に対する聞き手の認識の程度が確実に伝達できるか今後検討する必要があるだろう。

5. まとめと今後の課題

本稿では、神尾（2002）の「情報のなわ張り理論」を援用し、中国語会話と日本語会話におけるあいづちの使い分けを考察した。A状況～D状況についてまとめると次の4点になる。

第一に、 $1=S>H<n$ の場合、中国語会話には「这样啊（そうなんだ）」「哦（哦ー）（なるほど）」、「啊ー（あー）」のような「あいづち詞」のほか、「先取り」も出現している。相手のなわ張りに踏み込むことによって、積極的に相手の話題に参加し、お互いの親密さを示そうとしていると考えられる。一方、日本語会話では、「へえ」、「そうなんだ」、「なるほど」のような「あいづち詞」だけが用いられている。「先取り」は出現していない。

第二に、 $1=H>S>n$ の場合、中国語会話と日本語会話で現われるものには、「あいづち詞」や「先取り」があった。また、「繰り返し」や「言い換え」も中国語母語話者と日本語母語話者に出現した。

第三に、 $1=H>S<n$ の場合、中国語会話には、1種類のあいづちのみが出現し、「嗯（うん）」「对（そう）」という「直接形あいづち」を用いている。日本語会話では、直接形

の「うん」と間接形の「そうらしい」という2種類のあいづちが使い分けられているという違いのあることが明らかとなった。

第四に、 $n > S > H$ の場合、中国語会話に用いられたあいづちは無く、「我不知道（よく知らない）」と応じて、情報に対する認知がゼロであることが明示されているが、日本語会話では、「えっ」のような「感嘆表現」を用いる傾向がある。日本語の会話において当該の情報に対する認知の程度が確実に伝達できるか不明である。

なお、中園（1992）の研究成果と比較した結果、中園が指摘しているとおり、「諾否表現」「先取り」が用いられることが確認できた。それ以外に、「繰返し」が「聞き手情報」において観察された。今回は「言いさし」が観察されていない。「非聞き手情報」では、「感嘆表現」で応じることが先行研究と一致する結果として得られた。「質問」「繰返し」は出現していない。

最後に、今回は、言語によるあいづち表現に限って考察したが、より妥当性を高めるために今後は日常会話のデータを増やし、統計的な研究も必要となろう。また、今回得られた結果は、基本的には発話の直後に出現しているあいづちのデータであり、文の途中に用いられるあいづちが情報のなわ張りに関与するか否かについては考察しなかった。聞き手の反応の一環として、視線やうなずきなどの非言語的なあいづちも使われると考えられ、その分析は今後の課題である。

注

- 1) あいづちの定義について、それぞれ研究目的や基準などにより、さまざまな解釈がある。White（1986）は英語のBack channelを狭義のあいづち（un-huh,yeah,ohなど）から広義のあいづち（sentence completion,word supplyなど）まで幅広く捉えている。
- 2) 話し手または聞き手を指す。（神尾1992：21）
- 3) 神尾（1990：33と55）では、「a.話し手自身が直接体験によって得た情報 b.話し手自身の過去の生活史や所有物についての個人的事実を表す情報 c.話し手自身の確定している行動予定及び計画などについての情報。 d.話し手自身の近親者またはごく身近な人物についての重要な個人的事実を表す情報 e.話し手自身の近親者またはごく身近な人物の確定している重要な行動予定、計画などについての情報 f.話し手自身の職業的あるいは専門領域における基本的情報 g.話し手自身が深い地理的關係を持つ場所についての情報 h.その他、話し手自身に何らかの深い関わりを持つ情報 i.話し手自身が伝聞（報道機関などにより伝達されたものを含む）によって得た確実とみならず情報」とされる。
- 4) 中園（1992）の言う「聞き手情報」とは、神尾（2002）の「B」と「C」状況を指す。
- 5) 神尾（2002）の「A」と「D」状況を指す。
- 6) 資料に出現した「哦ー（なるほど）」「啊ー（あー）」の代表例である。

「哦ー（なるほど）」

22SC 7：我昨天就取不出来，好害怕的，根本都不敢带了，怎么都弄不出来，然后眼泪水就不停的流。

→23HC 8：哦ー。

（日本語訳）

22SC 7：私は昨日取り外せなくて、怖かったんで、装着するのが怖くて、どうしても外せなくて、涙をぼろぼろ流したんだ。

→23HC 8：なるほど。

「啊ー（あー）」

92SC 3：悄悄地去学，如果被发现的的话，

93HC 4：嗯。

94SC 3：久而久之的话可能会被排挤。

→95SC 4：啊ー。

（日本語訳）

92SC 3：こっそり勉強して、ばれたら、、

93HC 4：うん。

94SC 3：そのうち外されるかも。

→95SC 4：あー。

- 7) 堀口 (1997)「あいづちの定型表現として使用される「はい」「ええ」「ん」「そう」「ほんと」「なるほど」「そうですね」などを一つの枠にしてまとめているもの」を、楊 (2004)「聞き手が話し手に対して送る「嗯」「啊」「是吗」などの感嘆や慣用表現」を「あいづち詞」と定義する。
- 8) 「お互いに相手の話を完結しあう」発話を「共話」とする。水谷 (1983) の造語である。黒崎 (1997) はそれを引用している。
- 9) ①「あなたは、相手だけ知っていることを話す時、その話の先が予測できる場合、話し手が言う前に言いますか。」という項目を設定した。その結果は、中国人母語話者は 6 人の中 5 人は「はい」を選択した。理由として主に「雰囲気を保つ」「話題の参加」「相手の話を理解した意を示す」「新しい話題もできる」「真面目に聞いている」「興味を伝える」といったものであった。
- 10) 「日本語ではA状況の場合、情報が話し手のなわ張り内に独占されていることが直ちに含意される」(神尾1992:56) と指摘することに従えば、聞き手は自分のなわ張り外の情報をあたかもなわ張り内にあるかのようにして「先取り」を用いると適切ではないため、避けるのであろうと考えられる。
- 11) 理解や同意を積極的に表明するものを指す。
- 12) B状況の場合は、 $1=H=S>n$ と $1=H>S>n$ という2種類があるが、ロールプレイ設定にあたって、 $1=S>H>n$ の場合は設定しにくいいため、今回 $1=S>H>n$ を扱わないことにした。
- 13) ここでは「～そうだ」「～らしい」「～みたい」のような様態を表すものが出現しなければ「直接形あいづち」と呼ぶことにした。
- 14) 日本語の直接形の用法について、語用論的な丁寧さの原則を求めることが出来る。(神尾2002:58)

15) D状況の場合はロールプレイ設定にあたって、 $n>S=H$ の場合は設定しにくいいため、今回 $n>S>H$ しか扱わない。

【参考文献】

- 宇佐美まゆみ (2007) 「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese : BTSJ) 2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成15—18年度科学研究費補助金基盤研究B2研究成果報告書
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』大修館書店
- (2002) 『続・情報のなわ張り理論』大修館書店
- 黄麗華 (2002) 「中国語の肯定応答表現—日本語と比較しながら」定延利之編『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房
- 黒崎良昭 (1997) 「話しことばコミュニケーション(2)会話を進展させる表現」『日本語学』17巻4号
- 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』くろしお出版
- 中園篤典 (1992) 「情報のなわ張りから見た対話の構造—聞き手のあいづちを中心に—」筑波大学国語国文学会『日本語と日本文学』16号 39—49
- 水谷信子 (1984) 「日本語教育と話しことばの実態—あいづちの分析—」『金田一春彦博士古稀記念論文集 第2巻 言語学編』三省堂
- 永田良太 (2004) 「会話におけるあいづちの機能—発話途中に打たれるあいづちに着目して—」『日本語教育』120号 53—62
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』東京 くろしお出版
- 泉子・K・メイナード (1993) 『会話分析』くろしお出版
- 松田陽子 (1988) 「対話の日本語教育学—あいづちに関連して」『日本語学』7—13
- 水野義道 (1988) 「中国語のあいづち」『日本語学』7巻13号 明治書院 18—23
- 楊 晶 (1999) 「中国語と日本語の電話会話におけるあいづちの使用の比較—形式と頻度の観点から—」『言語文化と日本語教育』17号
- (2004) 「中国語会話におけるあいづちの機能についての一考察」『高崎経済大学論集』第4巻第1号 31—44
- White, S. (1986) *Functions of Backchannels in English : A across cultures analysis of Americans and Japanese*. Unpublished doctoral dissertation, Georgetown University.

トランスクリプションのための記号 (宇佐美2007による)

- 。 [全角] 発話文の終わりにつける。
- 『 』 雑誌や映画などの題名のような固有名詞を『 』で括る。
- /沈黙 秒数/ 1秒以上の「間」は、その秒数を左記のように記す。

- == 改行される発話と当該発話の間が、途切れなく繋がっていることを示す。
- 話し手自身の発話の繋がりが話し手と聞き手との応答との繋がりが使用することができる。
- 「↓」 下降調の表記
- … 音声的に言い淀みに聞こえるものにつける。
- .. 話の途中。
- ？ 疑問文につける。
- 【 【 】 当該の発話が完結する前に、途中に挿入される形で、参加者の発話が始まり、結果的に当該の発話が終了した場合につける。終了せざる得ない発話の終わりには、句点「。」の前に【【をつけ、参加者の発話の冒頭には】】をつける。
- () 相手の発話の途中に現れるあいづちを示す。
- < > { | } 同時発話されたものは、重なった部分双方を < > でくくり、重ねられた < 発話 > には { | } をつけ、重ねた方の < 発話 > には } | } をつける。
- < > 笑い、頷くなどのように説明を示す。
- # 聞き取りに確信を持ってない部分につける。
- [] トランスクリプトを公開する際、会話の参加者や被験者のプライバシーの保護ために明記できない固有名詞を表す時に用いる。

付 記

本稿は、平成22年度日本語学会中国四国支部大会（於山口大学）で口頭発表した内容を加筆修正したものです。席上示唆に富むご意見とご教示を賜った諸先生方にお礼申し上げます。また、査読者の方々からも貴重なご指摘をいただきました。記して感謝申し上げます。

— おう・せい、広島大学大学院文学研究科博士後期在学 —